

胡瓜の接木に関する研究

第3報 施肥量について

田中幸孝・浅井繁利
(福岡県農業試験場園芸分場)

TANAKA, Y. and ASAI, S.
Studies on the Grafting of Cucumber
(Ⅲ) On the quantity of fertilization

キュウリの接木栽培において、第1報でMg欠の発生、第2報で果型のみだれの認められることを報告したが、これらの問題について、砧木と施肥量の関係について検討したのでその概要を報告する。

試験方法

砧木 平和親善, 中村早生

穂木 久留米落合H型

播種期 砧木 2月17日, 穂木, 2月23日

接木期日 2月27日

定植 4月10日, 1区40株, 3連制

肥料 10a当り N—36kg, P—20.6kg,

K—30.0kg

第1表 試験区及び生育調査 (6月20日)

試験区	項目	N			P			K			変長		節数		葉数		葉重		側枝数
		g	g	g	g	g	g	cm	g	枚	枚	g	g						
自根	1	100	100	100	418	382	45.4	33.4	627	1.9									
	2	100	100	100	420	384	46.5	34.0	562	0.8									
平和親善	3	70	100	100	428	380	45.4	34.2	569	1.2									
	4	70	70	70	410	371	44.6	32.9	543	1.2									
中村早生	5	100	100	100	405	344	45.2	31.8	523	0.7									
	6	70	100	100	380	352	45.6	31.8	551	0.8									
	7	70	70	70	383	356	45.7	32.0	516	1.1									

蔓長、節数の増加、葉の大きさ、蔓の太さ、生体重等生育を総合的にみると、中村早生砧区が劣り、収量は自根区が最も多く、中村早生砧区が劣る。接木区は生育、収量ともに同一砧木内では施肥量の多少による

第2表 収穫本数 (1株当り累計)

	上 物						中 物						下 物
	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	
1	0.7	1.3	4.2	7.2	9.6	12.2	0.6	1.5	3.2	4.6	5.9	7.7	6.4
2	0.7	1.5	4.3	6.1	8.2	10.4	0.8	1.6	2.8	4.2	5.1	7.2	7.6
3	0.4	0.9	3.4	5.2	7.1	9.6	0.6	1.3	3.2	4.7	6.5	8.6	7.2
4	0.7	1.4	3.9	5.5	7.8	10.1	0.7	1.4	3.1	4.5	5.8	7.4	6.8
5	0.6	1.2	3.7	5.1	6.6	8.4	0.5	1.3	2.8	4.3	5.3	7.0	7.0
6	0.3	1.0	3.6	4.9	6.5	8.6	0.5	1.2	2.9	4.1	4.8	6.7	7.0
7	0.5	1.1	3.7	5.2	6.8	8.5	0.4	1.2	2.9	4.1	5.3	7.2	6.3

第3表 果実調査

試験区	果 型			果 型 指 数 (果径/果長)						中 ス キ						
	調査本数	A型	B型	C型	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	5月上旬	5月中旬	5月下旬	6月上旬	6月中旬	6月下旬	中スキ率
1	1,465	90.4	5.2	4.4	0.155	0.129	0.132	0.121	0.120	0	0	1.8	1.3	0	3.7	6.8
2	1,338	82.4	10.4	7.2	0.179	0.153	0.141	0.128	0.126	0.5	0	5.9	2.2	4.1	5.0	17.7
3	1,417	82.0	9.5	8.5	0.188	0.148	0.139	0.131	0.123	0.5	0	7.1	1.8	3.1	5.7	18.2
4	1,408	77.1	12.7	10.2	0.183	0.155	0.138	0.131	0.126	0.9	0	5.9	0.9	3.7	5.9	17.3
5	1,249	80.7	12.2	7.1	0.193	0.149	0.139	0.129	0.123	0.5	0.9	10.4	2.7	5.0	5.5	25.0
6	1,255	82.1	11.6	6.3	0.190	0.155	0.140	0.131	0.127	0.9	1.3	10.9	5.1	3.6	5.0	26.8
7	1,272	82.1	12.3	5.6	0.192	0.150	0.140	0.131	0.122	0.5	0	9.0	3.1	5.1	2.3	20.0

註 A型: ~正常果 B型: ~果径が太く短いもの C型: ~肩張りよく細のもの

区間差は少なく、砧木の種類による差が大きい。

接木区の初期収穫果は果長の割合に果径が太く、従って、果型が悪く、しかも、中スキ率が高く、形状品質ともに劣る。

Mg欠乏症は自根区には全く認められず、平和親善砧区は30%、中村早生砧区は80%以上の株に発現した試験の結果、同一砧木については施肥量は3割減ま

で差はないが、自根区に比べて南瓜砧では減肥の可能性は少ない様に思考される。

初期収穫果の果型のみだれは、親和性が関連して、草勢に起因するのかわ、親和性は充分で良く生育しても南瓜に接木することによって本質的に果型が乱れるのか、これ等果型について更に検討する。